

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：水産業費 目：水産業振興費

事業名 外来魚生息拡大防止緊急対策事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 里川・水産振興課 コクチバス対策係 電話番号：058-272-1111(内4216)

E-mail：c11428@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 43,598 千円 (前年度予算額： 95,961 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	95,961	1,951	0	0	0	0	0	0	94,010
要求額	43,598	1,330	0	0	0	0	0	0	42,268
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

令和5年5月に美濃市内の長良川でコクチバスの生息が初確認された。コクチバスは外来生物法で特定外来生物に指定されている肉食魚であり、低水温環境へ適応できると、高い遊泳力をもつことから河川において繁殖し、アユ等の水産資源に対する食害が発生する恐れがある。また、河川で一度定着・拡大してしまうと完全な駆除が極めて困難である。

そこで、岐阜県コクチバス駆除総合対策に基づいて、電気ショックカーボートなどあらゆる方法によりコクチバスの駆除を進める。

(2) 事業内容

- コクチバス駆除等委託・県駆除活動(40,938千円)
- 環境DNA分析(1,986千円)
- 会計年度任用職員(補助職員・分析補助)(674千円)

（３）県負担・補助率の考え方

長良川においてコクチバスが初確認され、「清流の国ぎふ」づくり、そして世界農業遺産「清流長良川の鮎」の認定を脅かす存在であり、長良川流域、さらに全県下に広がる恐れがあることから、県が早急に対応する必要がある。

（４）類似事業の有無

無

３ 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報酬	619	会計年度任用職員（補助職員・分析補助）
共済費	3	会計年度任用職員（補助職員・分析補助）
旅費	841	業務旅費(789)、費用弁償（52）
需用費	4,356	消耗品費(1,854)、燃料費(194)、印刷製本費（600）修繕料（1,708）
役務費	328	役務費（64）、保険料（264）
委託料	37,209	電気ショックカーボート等運用委託
使用料及び賃借料	201	高速道路使用料
公課費	41	重量税
合計	43,598	

決定額の考え方

４ 参 考 事 項

（１）各種計画での位置づけ

- ぎふ農業活性化基本計画（仮称・令和８年３月策定予定）
第４章 基本方針ごとの重点施策と主な取組
＜基本方針４＞ 安心できる農畜水産業と農村の環境整備
【重点施策】（４）生産を脅かすリスクへの対応
＜外来生物による被害への対応＞

- 岐阜県水産業振興計画(R5～R9)
2 (2)活力ある（釣れる）漁場づくり施策
7)コクチバス駆除

（２）国・他県の状況

特定外来生物等による被害の防止措置に対する支援（水産庁基本方針）
栃木、群馬、長野、滋賀県においてコクチバスの買い取り補助を実施

（３）後年度の財政負担

岐阜県コクチバス駆除総合対策において、令和7年度までに長良川、令和8年度までに木曽川・揖斐川の完全駆除を目標としている。また、長良川では令和8年度、木曽川・揖斐川では令和9年度以降に駆除の効果検証（生息していないことの確認）を行う必要がある。

（４）事業主体及びその妥当性

外来生物法第2条の3、第17条の2により、都道府県は、被害発生状況等の実情に応じて被害の防止のために必要な措置を講じ、被害が生じるおそれがある場合において、特定外来生物の防除を行う必要があると認めるときは防除を行う。

事業評価調書（県単独補助金除く）

☐ 新規要求事業

☒ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

電気ショッカーボート等の運用による駆除及び環境DNAを用いたコクチバスの生息状況モニタリングを継続的に実施し、コクチバスの完全駆除及び低密度管理を行う。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R5)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	達成率
①木曽三川における環境DNA調査地点数	0	467	360	250	194.6%
②電気ショッカーボート等における駆除回数	0	376	452	355	105.9%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	<div></div> <p>指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %</p>
令和5年度	<div></div> <p>指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %</p>
令和6年度	<p>① 3流域各20箇所を四季毎に採水し、240箇所の環境DNA調査を行った。さらにため池やダム湖等の調査も行い、コクチバスの生息分布を広く把握することができた。</p> <p>②大型連休や年末年始等を除く平日での駆除を計画、実施したが、降雨や風、高温等の気象条件により中止せざるを得ない状況があったため、目標を達成することができなかった。</p> <p>指標① 目標：240箇所 実績：467箇所 達成率：194.6%</p> <p>指標② 目標：400日 実績：376日 達成率：94.0%</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 2	外来生物であるコクチバスの蔓延を防ぐためには、まずは集中的に生息尾数を減らす徹底した駆除が必要となる。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	岐阜県コクチバス駆除総合対策に基づき計画的に事業実施しており、成果を上げている。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	効果的な駆除方法の検討を駆除活動の中で実施し、効果のある方法については速やかに駆除活動に取り入れている。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 県漁連や漁協が長期にわたり、継続して実施できる体制づくりも必要である。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 水産関係団体及び一般県民の関心の高い事業であることから、継続的に駆除及び環境DNAによる定点モニタリングを実施する必要がある。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせる理由や期待する効果 など	